

J113a 高銀緯 X 線新星 MAXI J1619-383 の発見と MAXI が発見検出した 2014 年度後半の突発天体

根來 均, 福島康介 (日本大学), 芹野 素子, 森井 幹雄, 松岡 勝 (理研), 中平聡志, 富田 洋 (JAXA), 河合 誠之 (東工大) ほか MAXI チーム

全天 X 線監視装置 MAXI が 2014 年度後半に発見した新天体、突発現象、またその特徴について報告する。MAXI は、11 月 14 日に X 線新星 MAXI J1619-383 を発見し、世界に速報した (Serino et al. ATel 6708)。発見時、太陽からの離角が 24 度と近かったため、Swift 衛星による追観測はできなかったが、MAXI の観測から決定した位置の誤差範囲内にはこれまで報告された X 線新星はない。アウトバーストは 10 日以上続いたが、強度はピーク時でも 30 mCrab 程度と暗く、また冪関数でエネルギースペクトルをフィットしたところ、冪の値が  $1.43^{+0.43}_{-0.21}$  と比較的ハードな値を示したことから、中性子星かブラックホール候補天体のハードステートの可能性がある (Morii et al. ATel. 6767)。

同天体は、銀河座標系で  $(l, b) = (341.6, 8.4)$  と比較的高銀緯に位置する。これまでも MAXI によって 1 つのブラックホール候補天体と、3 つの中性子星連星系が  $|b| > 16^\circ$  と高銀緯で発見されており、MAXI J1619-383 も同様な銀河面から離れた連星系の可能性がある。

講演では、MAXI J1619-383 をはじめ、MAXI がこの半年間に発見、検出した突発天体や現象を報告するとともに、これまでに MAXI で発見された高銀緯天体の特徴からその起源について議論する。